

# 小説「絆～走れ奇跡の子馬～」



馬主伏見さん

南相馬と言えば、毎年7月末に3日間開催される「相馬野馬追」が有名ですが、作中には野馬追に出る家庭から見たお祭りの模様やハイライトのひとつである神旗争奪戦での騎馬武者の心情や駆け引きの情景が描かれています。実際は、南相馬市内に競走馬生産牧場はありませんが、野馬追に出場する馬が多数飼育されています。その数は、出場する騎馬約400頭の半数にあたります。自宅の敷地内に馬房を構え、個人で飼育している家が多く見られます。

作中で主人公の拓馬も出場する相馬野馬追に40回以上の出場経験があり、クロとハルの2頭を飼う伏見克夫さんは、毎朝馬の世話をし、家の敷地内で乗馬をしています。時には、2キロ先にある野馬追の会場まで馬に乗って移動し、訓練に行くといえます。「相馬野馬追は生活のリズムで毎年訪れる季節のようなもの」と話し、これまで出場した時の思い出をそうに語っていました。

「生まれた時から家には馬がいて、生活に溶け込んでいて、今後ずっと馬を飼いたい」と、これからも馬と暮らす南相馬の文化が継承されていくことを望んでいます。

南相馬市内で馬の見学や乗馬体験ができます！

おたのしみ大瀧馬事苑  
〒975-0037福島県南相馬市原町区北原字平11  
営業時間：10:00～15:00 ☎090-3642-1095  
※一週間前までに要予約



伏見さんと昨年初陣となった孫の祐希くん



●あらすじ  
東日本大震災が起きた2011年3月11日、津波にのまれた主人公松下拓馬と父が営む競走馬生産牧場を奇跡的に子馬「リヤンドール(北の絆)」が生まれた。震災で大切な人や住む場所を失った拓馬や福島の人々の希望を背負い、競走馬として成長し、大舞台を迎える。人と馬の絆のストーリー。



Blu-ray&DVD発売中  
Blu-ray: ¥4,700+税  
DVD: ¥3,800+税  
©2011「星守る犬」製作委員会 発売元:電通 販売元:東宝

●あらすじ  
北海道のとある田舎町。キャンプ場に通じる林道脇の草むらに放置された車の中で、身元不明の男と犬の遺体が発見された。市役所福祉課に勤める奥津は、男と犬の謎に包まれた物語に興味を持ち、わずかな手がかりを基に彼らの冒険をたどる旅に出る。東京から北海道まで、彼らと交流した人々の話を聞きながら旅を続ける中で、奥津はいつしか自分自身の人生を見つめ直すことになる。

物語の主人公・奥津の家とその前に広がるひまわり畑のロケ地となったのは、名寄駅から車で約10分に位置する「北海道立サンピラーパーク」です。7月中旬～8月中旬頃には斜面いっぱいにはひまわりが咲き乱れ、本映画の瀬本監督もサンピラーパークからの眺めを見た時、この映画が誕生することになった」とコメントするほどの絶景です。冬はカーリングを体験できるほか、併設する「なよろ市立天文台きたすばる」ではプラネタリウムが見られるなど、一年を通じて楽しめる場所です。また、さすばるの前には劇中に登場する身元不明の男が飼っていた犬ハッピーの石像があり、来館者をお出迎えしてくれます。

男とハッピーの旅の終着点となったのは、「ふうれん望湖台自然公園」です。名寄駅から車で15分程の場所にあり、夏には園内でキャンプやバーベキューが楽しめます。また、桜の名所の一つでもあり、5月頃には隣接する忠烈布湖で桜が咲き誇ります。映画に出演した西田敏行さんと玉山鉄二さんの手形が刻まれた記念碑もあるので、訪れた際にはぜひチェックしてみてください。



▲ふうれん望湖台自然公園(北海道名寄市風連町字池の上165) ▲北海道立サンピラーパーク(北海道名寄市市日進147)

## 「交流自治体が「舞台」特集」 映画「星守る犬」



## 静岡県南伊豆町 映画「いなくなれ、群青」

階段島の人々が暮らす風景が撮影された「子浦地区は200人ほどが暮らす集落で、三方を山に囲まれた、波穏やかな入り江のあるまちです。「美しく、どこか懐かしくて、ちょっとだけ切なさもあって、どこかに優しく守られているようなあたたかさ」。そんな空気が漂う階段島の世界観にびびったりだったと監督は言います。廃校になった学校の体育館で撮影されたシーンには、町内や隣町の学生など約100名がエキストラとして集まりました。

物語の冒頭とエンドロールが撮影されたジオパーク



ジオパーク ユウスゲ公園



「ロケ地マップを片手に映画の中の景色を探してみたいかがでしょうか」  
ロケ地マップは、区役所中棟1階コミユかるショップ横の交流自治体情報コーナーに設置しています。



石廊崎灯台(静岡県賀茂郡南伊豆町石廊崎125番地)



Blu-ray&DVD発売中  
©河野裕/新潮社 ©2019映画「いなくなれ、群青」製作委員会

●あらすじ  
「階段島」で暮らす人々は、突然ここにやってきて、必死してここに来たのが誰も知らない。この島を出るには、なくしたものを見つけなければいけないというラビントだけ。しかし皆、考えることをあきらめ、普通に暮らしている。ある日島にやってきた真辺由宇は、島での生活に納得できず、島から出ようとした幼なじみの七草や周囲を巻き込みながら謎を解き明かしていく。明かされた真相は、二人に残酷な真実を突きつける。